

## 福祉と医療の学習会記録

2006年8月19日(土)

13:30~16:00

場所:東金ふれあいセンター

参加者:児玉、山尾、新夫妻、加養、藤本、大野

記録:藤本

テーマ「福岡地区福祉ネットの取り組みのケーススタディ」

(以下、児玉さんより説明)

### 福岡地区福祉ネット設立の経緯

地域福祉ネットは、県の事業「小域福祉フォーラム」のこと。小学校区を対象に、地域に関することは何でもやろうと言う組織。(ほかには松戸、館山にもある)

地域づくりをミッションにしている団体は、社会福祉協議会のほかにもたくさんある。(個人、市民団体、個人事業所など)福岡地区では、独立団体として福祉ネットを作り、福岡の地区社協と、それぞれの働きを補い合う形をとっている。福岡福祉ネットの顧問は、福岡地区社協の会長の中村さん。

### 福祉政策はどうやって決まる？

市町村の保健福祉計画

県 千葉県高齢者保健福祉計画・第三次千葉県障害者計画・千葉県次世代育成支援行動計画

県のアクションプラン 県議会で審議

市町村 市町村議会で審議

### 福岡地区福祉ネットの取り組み

1. アンケート調査 地域のニーズと、ボランティア候補者を把握するため。

ニーズのうち、

- 1位(47%) 高齢者に関すること
- 2位(31%) 子供に関すること
- 3位(19%) 子育てママに関すること
- 4位(4%) 障害者に関すること

2. 地域のニーズを分析

行政の複数の課にまたがる課題は、行政では解決しにくい  
そこで、住民レベルでの政策提言をする。

行政にとっての最大の課題は「財政」である。

医療費、介護給付費を削減する。

高齢者の健康増進に重点を置く。

新しく、要介護認定になる人を削減しよう。

要介護度2以上への移行を防止しよう。

### 3. 具体的な対策

健診の受診率を上げる（現在は24.5%）

草の根的に近所で声をかけあう

再検査の人を医療機関につなげるために、通院巡回バスを走らせたり、地域の住民同士で送迎をしたりする。

食事と運動を大切に。

からだ元気塾のシステム化 塾を受けた人が地域のリーダーになる  
各地区で、料理教室と運動教室をセットにした催しを行う

#### （意見交換）

健康診断の受診率を上げることが大切だと思った。また、病気予防のためには運動と食事が大切だと思う。

予防と言うと、イコール生活習慣病対策になっているが、いろいろな催しにしても健診にしても、元気な人ばかり集まってくる。これからの対策は70～75歳以上の女性を対象者として絞るべきだと思う。高齢者のためのサロンの実施もいい。

若い人が昼間働いているので、地区の人に伝えるチャンスがない。いろいろな催しをしても出てくる人が決まっている。地区に、どのような人がいるのか掘り下げる必要がある。いつも来ない人を対象に考えていく必要がある。行政の訪問指導、リハビリは効率が悪い。

からだ元気塾は県内6箇所で、各所年間100人の生徒を見込んで実施した。しかしやり手がない。元気塾では食改善の指導も行う。アリーナやトレーニングルームでは、やりたい人が自分でトレーニングする。

かかりつけ医で検診を受けるシステム作りが出来ないか。

大網では、地区社協は福岡福祉ネットのような働きをやりたがらない。組織があっても連携を進める人がいない。人づくりが必要。

外房の九十九里一帯のリーダーを作るような、働きを進めていきたい。